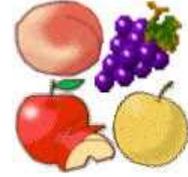




平成30年度 果樹情報 第10号

(平成30年8月8日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況（7月後半：果樹研究所）

平均気温は、4半旬が28.8℃で平年より5.2℃高く、5半旬が28.1℃で平年より3.7℃高く、6半旬が27.0℃で平年より1.6℃高く経過しました。
4半旬から6半旬の降水量は10.5mmで平年の17%でした。

2 生育状況（8月1日時点：果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大

ももの暦日比較では、「ゆうぞら」は縦径118%、側径125%と平年より大きく、満開後日数による比較でも、平年より大きい状況です。

イ 早生～中生品種の収穫期と果実品質

「暁星」の収穫盛りは7月16日で平年より11日早まりました。果実の大きさは211gと平年並で、糖度は14.8と平年よりも高くなりました。

「あかつき」の収穫始めは7月23日で平年より10日早く、収穫盛りは7月25日で平年より11日早まりました。果実の大きさは229gと平年より小さく、糖度は15.1と平年よりも高くなりました。「まどか」の収穫始めは8月2日で平年より8日早まりました。

表1 ももの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/29	7/ 8	7/ 7	7/ 1	7/11	7/11	7/ 5	7/15	7/13	239	261	273	13.5	11.3	13.1
日川白鳳	7/ 2	7/16	7/10	7/ 5	7/19	7/11	7/ 9	7/22	7/13	244	230	249	13.3	10.7	12.6
暁星	7/13	7/23	7/18	7/16	7/27	7/22	7/20	7/31	7/28	211	215	221	14.8	12.7	14.0
ふくあかり	7/13	7/24	7/21	7/20	7/30	7/25	7/26	8/ 3	7/31	278	259	284	14.3	12.8	13.9
あかつき	7/23	8/ 2	7/31	7/25	8/ 5	8/ 2	7/30	8/10	8/ 7	229	265	278	15.1	12.6	13.6
まどか	8/ 2	8/10	8/ 8	未	8/14	8/13	未	8/19	8/17	未	333	397	未	13.2	13.5
川中島白桃	未	8/24	8/17	未	8/27	8/19	未	8/31	8/23	未	333	473	未	12.8	13.6
ゆうぞら	未	8/31	8/24	未	9/ 4	8/27	未	9/ 9	8/31	未	324	373	未	12.7	11.8

※ 未は未確定

(2) なし

ア 果実肥大

なしの暦日比較では、「幸水」は縦径119%、横径117%と平年より大きく、「豊水」は縦径112%、横径112%と平年より大きい状況です。満開後日数による比較では、「幸水」は平年並みで「豊水」は平年よりやや小さい状況です。

イ 「幸水」の裂果発生状況

「幸水」の裂果は確認されませんでした（平年3.6%）。（平年値：1990～2017年の平均）

ウ 「幸水」の成熟経過

満開後105日（7月30日）における成熟調査の結果は、果実硬度が11.7ポンドと平年よりも高く、糖度が11.0とほぼ平年並み、果皮中クロロフィル含量が14.4μg/cm²と平年を上回っている状況です。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は、平年値を上回っており、現時点では果肉先熟の状況ではありません。

エ 「幸水」の収穫期予測

8月1日現在、当所における平均気温と降水量をもとにしたDVR予測プログラムによると、「幸水」の収穫盛期は平年より11日、昨年より10日早い8月20日と予想されています。

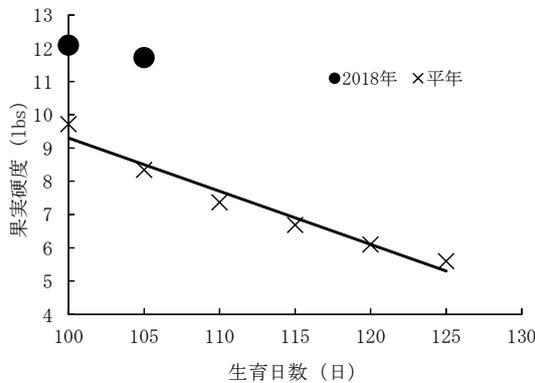


図1 「幸水」の果実硬度の推移

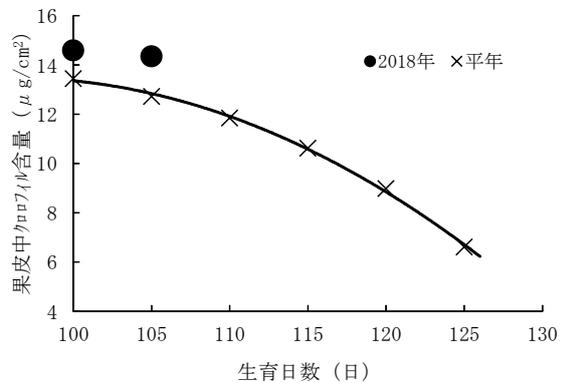


図2 「幸水」の果皮中クロロフィルの推移

(3) りんご

ア 果実肥大

りんごの暦日比較では、「つがる」は縦径115%、横径114%で平年より大きく、「ふじ」は縦径103%、横径105%と平年よりやや大きい状況です。満開後日数による比較では、「つがる」は平年より大きく「ふじ」は平年並です。

イ 「つがる」の成熟状況

満開後100日（7月31日）における「つがる」の果実品質は、硬度が15.3ポンドと平年並み、デンプン指数は1.0と平年より低く、果皮中クロロフィル含量が多く経過しています。

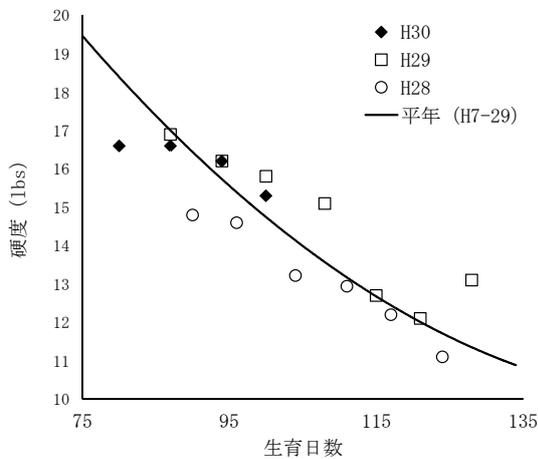


図3 「つがる」の果肉硬度の推移

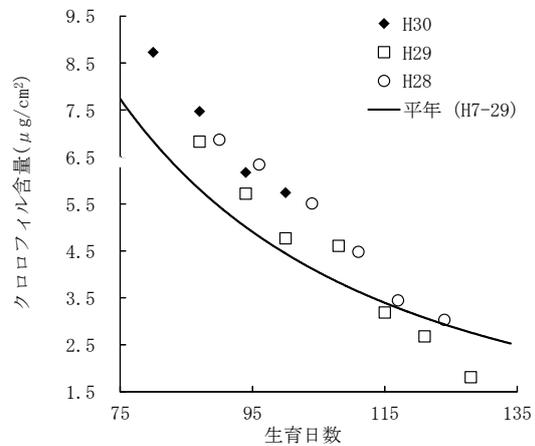


図4 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

(4) ぶどう

ア 「巨峰」の成熟状況

無核栽培における満開後51日（7月25日）の成熟状況は、糖度が14.1、酒石酸含量が1.11g/100mlとなっています。

イ 「あづましずく」の成熟状況

長梢栽培における満開後60日（7月30日）の成熟状況は、糖度18.4、酒石酸含量0.53g/100ml、果実カラーチャート値9.5となっています。短梢栽培における満開後53日（7月25日）の成熟状況は、糖度17.3、酒石酸含量0.62g/100ml、果実カラーチャート値8.7となっています。

3 栽培上の留意点

(1) 土壌の水管理

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度ですので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

ただし、ももでは収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

水利の確保が困難なほ場では、スピードスプレーヤーや貯水タンクを利用したかん水も有効です。

(2) もも

ア 中生品種の収穫

果樹研究所内の「あかつき」の収穫期は平年より10～11日早く経過し、現在、中生品種「まどか」の収穫中となっています。高温・少雨状況下において、「あかつき」の果実は小玉・高糖度傾向でしたが、収穫後半において軽度のみつ症が散見されてきました。

今後、収穫される品種においては、収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 晩生品種の収穫前管理

晩生品種の収穫期も平年より早まることが予想されます。今後、「川中島白桃」「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

また、有袋栽培では、除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、着色管理作業も計画的に行いましょう。

(3) なし

「豊水」は満開後120日(果樹研究所8月10日)頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するので、着果量を「幸水」並み(10a当たり10,000果)とし、適正着果に努めましょう。

(4) りんご

ア 落果防止剤の散布

「つがる」の落果防止剤としてストップール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日の25日前から7日前に1回散布しましょう。

イ 早生品種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを開始します。日焼け果の発生が懸念される場合は、直射日光の当たりにくい部位から始め、除々に作業を進めましょう。地色の緑色が強い時期に早めに葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意しましょう。

ウ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

(5) ぶどう

長梢栽培の摘心

一定の葉数が確保された8月以降の摘心は、果実品質の向上と新梢の充実が期待できません。8月上旬以降も伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安にそれより先を摘心しますが、摘心後も棚下が暗い場合は、新梢の間引きを行いましょう。この際、間引く本数は必要最小限にとどめます。また、副梢の摘心も同時に行い、摘心および停止した新梢から発生した勢力の強い副梢は、基部の2～3葉を残して摘心します。

4 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ褐斑病、輪紋病、炭疽病

褐斑病および輪紋病の防除対策として、8月上旬にベフラン液剤25 1,500倍またはベルコート水和剤 1,000倍を使用しましょう。また、炭疽病の発生が懸念される園では、これらの薬剤にかえてオーソサイド水和剤80 800倍を使用しましょう。

なお、炭疽病の発生を抑制するために、園地周辺のニセアカシア、シナノグルミ、イチハギなどの伝染源植物を除去しましょう。

イ リンゴ黒星病

本病の発生が見られる園においては、薬剤散布の間隔があきすぎないように注意しましょう。また、発病部位は伝染源となるため適切に処分しましょう。

ウ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

灰星病については天候の推移に注意しながら、灰星病防除剤を使用しましょう。

なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意しましょう。

晩生品種に対してはホモプシス腐敗病の防除対策も必要であるため、8月上旬にダイマジン 1,500倍またはベルコート水和剤 1,000倍を使用しましょう。

エ ナシ黒星病

「幸水」では8月上旬頃までに感染した果実が収穫期に発病するおそれがあるため注意が必要です。

本病の発生が見られる園において、散布間隔が前回の散布から10日以上あいている場合は、オーソサイド水和剤80 1,000倍またはベルコート水和剤 1,000倍を使用しましょう。

なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意しましょう。また、発病した葉、果実は伝染源となるため適切に処分しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代成虫の発生盛期は8月2半旬頃であると予想され、第5世代幼虫の防除適期は8月3半旬頃と推定されます。本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、防除や伐採などの対策を実施しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代成虫の発生盛期は8月2半旬頃と予想され、第4世代幼虫の防除適期は8月3半旬頃と推定されます。本種の第3世代以降はなし果実への寄生が増加し、また、中生品種以降のももで果実被害が発生する場合がありますため、例年、なしやももでの果実被害が多い場合やももの芯折れが多い地域では、第3世代以降に対して必ず防除を実施しましょう。

ウ カメムシ類

新成虫が発生する時期となっており、山間及び山沿いの果樹園ではカメムシ類の被害を受けやすいので、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行う。

エ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃です。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

オ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表2 主要チョウ目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成30年7月31日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 成虫盛期	第5世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月10日	8月13日	8月7日	8月12日
平年並み	8月10日	8月13日	8月7日	8月14日
2℃低い	8月11日	8月15日	8月8日	8月16日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 7月21日、ナシヒメシンクイ 7月15日

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>